



sapporo education and culture hall news
Raku



舞台解体新書

舞台作品は、さまざまな舞台機構や職種の人たちに支えられて生み出されます。観劇時に舞台の奥深さをより味わっていただけるよう、作品を支える仕組みについてご紹介します。

作品を支える、
さまざまな人の
役割と舞台機構

楽屋 【がくや】

舞台関係者が出演準備や休息をする部屋。メイクアップや衣裳の着替え、ときにはさまざまな打ち合わせも行われる。

綱元 【つなもと】

バトンの昇降を操作する場所。重量物を扱うため操作方法を熟知した人が行う。近年は電動化された劇場も増えている。

下手 【しもて】

客席から舞台に向かって左側を下手と呼ぶ。「下手にはける(舞台右側からいなくなる)」という感じで使われる。

バトン 【ばとん】

照明器具や舞台で上下する道具などを吊るして使用。舞台上部から舞い落ちる雪など、演出に欠かせない舞台機構の一つ。

上手 【かみて】

客席から舞台に向かって右側を上手と呼ぶ。お客さんに必要となる場面はないが、舞台関係者なら必ず知っている用語。

受付 【うけつけ】

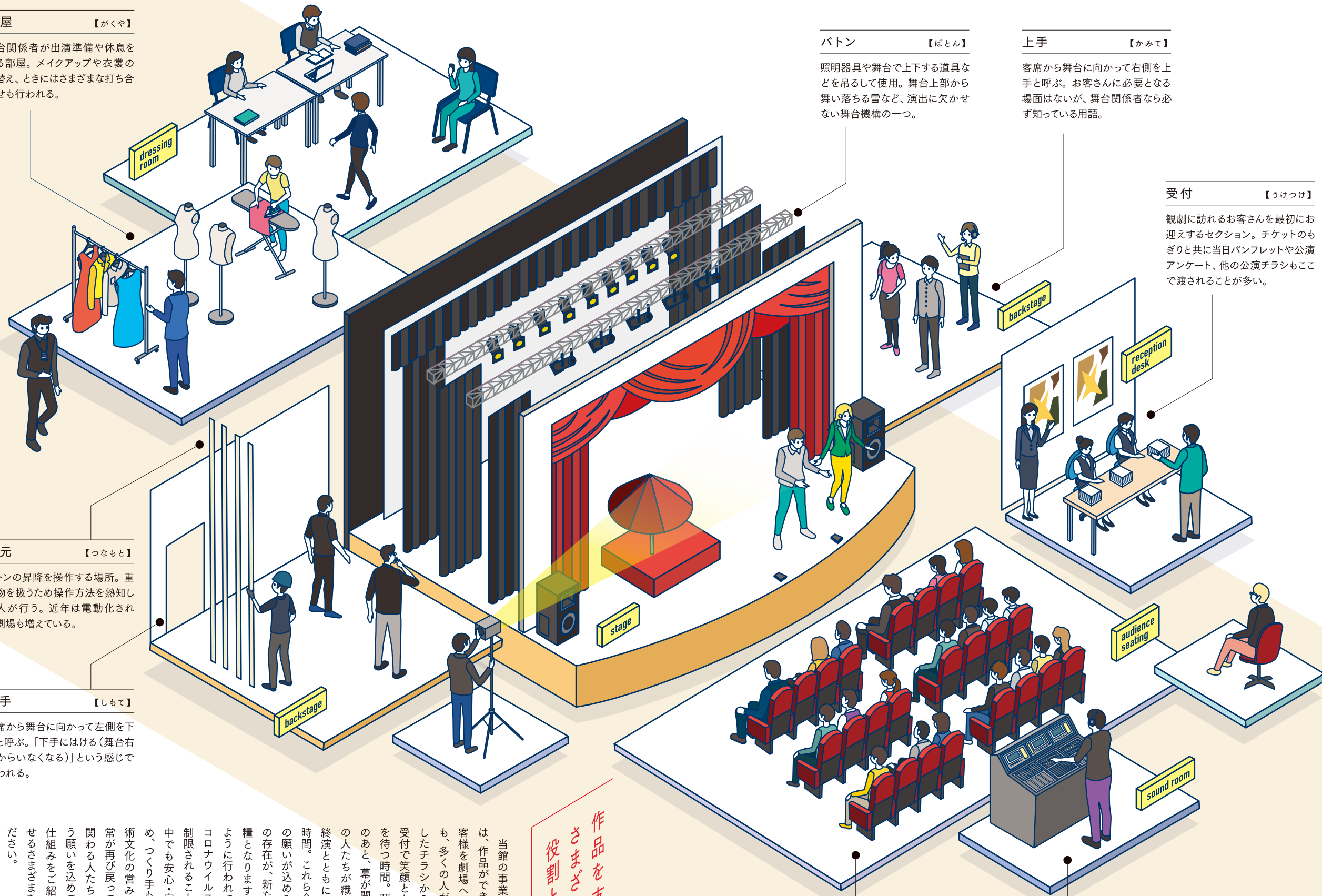
観劇に訪れるお客さんを最初にお迎えるセクション。チケットのめぐりと共に当日パンフレットや公演アンケート、他の公演チラシもここで渡されることが多い。

客席 【きやくせき】

前方で役者の表情や息遣いを楽しむのもよし、後方で舞台全体をチェックするのもよし。迷ったら中央付近の席をどうぞ。

音響室 【おんきょうしつ】

客席後方に位置し、設置された音響卓で音にまつわるさまざまな調整を行う。客席を一部つぶして操作スペースを設置することもある。



普段、観客として目にするのは舞台上で活躍する俳優だけということがほとんどですが、舞台作品にはたくさんの方が裏側で関わっています。当日の上演を支えるスタッフはもちろん、公演前の期間では、チラシを作る人、稽古スケジュールやチケット売上を管理する人、舞台美術を製作する人…と役割はさまざまです。上演中に舞台の裏側で活躍している人たちも、上演前後に活躍する人たちも、舞台上には出てこないけれど作品によってつくり、観客の前で上演されることで完成する舞台作品。生まれては消える舞台芸術の世界に関わる人々を、情報誌「act」「楽」の特集号と合わせてご紹介します。ぜひ「act」や「楽」で、それぞれの仕事の奥深さをお楽しみください。

創作段階から上演まで。
舞台作品を支える
担い手たち

G

宣伝美術

【せんでんびじゅつ】

演出家のイメージや物語をビジュアル化してチラシ製作。創作の早い時期に駆動するパート。



act 26号



C

表方

【おもてかた】

「制作」と呼ばれる仕事の中で、公演当日の受付業務(受付会計や会場案内)を行う。



楽 46号



B

俳優

【はいゆう】

観客を前に身体一つで全てを表現する。さまざまな演技理論があり、奥が深い世界。



act 17号



A

音響・照明

【おんきょう・しょうめい】

音響卓や調光卓を用いて、音にまつわるさまざまな調整や、舞台上の照明の操作を行う。

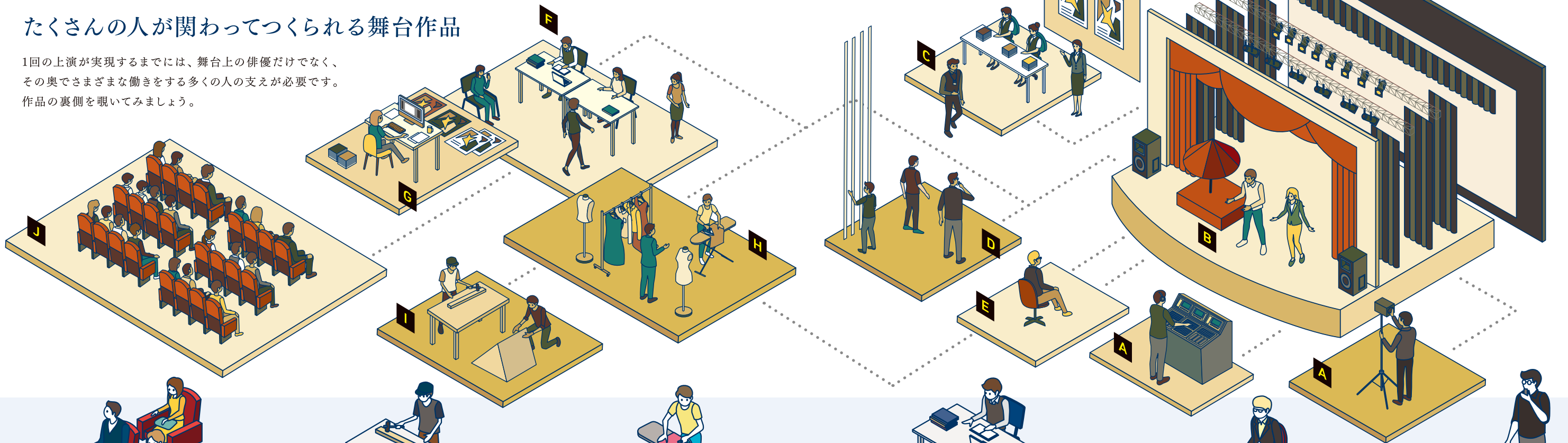


act 39号



たくさんの人が関わってつくられる舞台作品

1回の上演が実現するまでには、舞台上の俳優だけでなく、その奥でさまざまな働きをする多くの人の支えが必要です。作品の裏側を覗いてみましょう。



J

観客

【かんきゃく】

同じ作品でも、観客が変われば反応も空気も変わる。「舞台は生もの」と言われる所以。

I

舞台美術家

【ぶたいびじゅつか】

演出家の意図を汲み演者の動線を考慮してプラン作成、製作(プランと製作が分業の場合も)。



act 25号



H

衣裳

【いしょう】

デザイン、製作、スタイリングを通して作品の世界観を具現化。上演中の早替え等も担う。



act 35号



F

制作

【せいさく】

企画、資金調達、スタッフ手配やキャスティング、進行・票券管理、広報、当日運営、精算業務…と仕事は多岐にわたり、公演の規模によって分業化される。劇場や劇団専属の人がいれば、フリーランスの人。

E

演出家

【えんしゅつか】

作品世界をどのように演出するかを決める、創作における責任者。稽古では演技指導等を行い、台詞や動作を綿密にチェック。美術や照明、音響などのスタッフとも打ち合わせて、イメージした舞台をつくりあげる。

D

舞台監督

【ぶたいかんとく】

作品の創造過程から立会い、劇場入り後から本番、搬出に至るまでの進行管理を行う。



act 38号





教 文 和 文 化 巡 り

第8回 | ONSEN RYOKAN 由縁 札幌

伝統芸能とともに日本の文化の魅力を気軽に体感してもらう「和文文化プロジェクト」。
連載8回目は、ONSEN RYOKAN 由縁札幌をご紹介します。



ONSEN RYOKAN 由縁 札幌

札幌市中央区北1条西7丁目6
tel.011-271-1126

チェックイン 15:00 ~
チェックアウト ~ 11:00

<https://www.uds-hotels.com/yuen/sapporo/>

街中のカルルス温泉。 巣ごもりしたい温泉旅館

「北海道の文化と、和の意匠との融合」をコンセプトに、古き良き旅館文化を現代の感性でアップデートした、新しいスタイルの温泉旅館。暖簾をくぐり、細い通路の奥にある扉が開くと、道産ナラと札幌軟石、道内アーティストの作品に彩られた空間がお出迎え。季節毎のオリジナル音楽とお香、四季折々の生花装飾など、細部まで考え抜かれた演出で非日常へ誘います。和の設えと快適さを凝縮して落とし込んだ客室には、北海道大学植物園と高層ビル群のコントラストを窓越しに堪能できるお部屋も。一呼吸置いたら、登別市カルルス温泉から運んできた源泉を染しめる露天風呂を備えた温泉大浴場へ。内湯やサウナに加えて、街の音も耳に心地良い温泉露天風呂が、身体芯からほぐして温めてくれます。湯上り処でバナナアイスを無料提供しているのも嬉しいポイント。食事は、料理長が道内の生産者のもとへ足を運び厳選した食材による伝統的な日本料理を提供する「夏下冬上札幌」でどうぞ(※)。温泉やレストランの混雑状況をリアルタイムで確認できるので、安心して利用できます。withコロナの日々に、自分を癒しリフレッシュさせてくれる由縁札幌で巣ごもりしてみるのはいかがでしょうか？

※現在は朝食のみの営業です。

SAPPORO ENGEKI no WA

福地 美乃さんから指名

【プロフィール】

野村 大

Dai Nomura

1999年「つかこうへい北海道演劇人育成セミナー」に参加。つかこうへい演出のもと『売春捜査官』に出演。2005～2012年は劇団イナダ組に所属。2004年より演劇専用小劇場BLOCHプロデュース「LONELY ACTOR PROJECT」にて一人芝居を発表。2019年の演劇シーズンでBLOCH PRESENTS「野村大ひとり芝居傑作選」を発表。客演多数。



演 劇 の わ

野村 大

一人芝居をやっていて
本当に良かったと思います。

劇団イナダ組での活動を経た後、一人芝居と客演でキャリアを重ねてきた野村大さん。2019年の演劇シーズンで「野村大ひとり芝居傑作選」を発表後は、公演を見送りつつも創作は継続中。野村流「演劇の続け方」とは？

以前「LONELY ACTOR PROJECT」のパンフレットに「仕事や家庭の都合で大人数での演劇活動に参加することが難しくなっていますが、この企画のおかげで今なお舞台に立つ機会を頂いています」と書かれていました。

そうなんです、一人芝居は本当におすすです。

この2年はその公演も見送る中で、どのようにモチベーションを保っていますか？

仕事と家事、育児のバランスがあるので、どのタイミングで公演をできるかわからないのですけど…。脚本を書いたり、つくりたいシーンを想像したりして、演劇に関することが全くできない状態ではない、ということが大きいです。一人芝居だからこそ、一人でも「いつでもやれる状態」を維持できるというか。

ライフステージや、コロナのような社会状況の変化がある中で、どのように演劇を続けていくかは誰にとっても切実だと思います。劇団公演を軸にしている役者さんの場合、どんなことができると思いますか？

脚本を書くことは良いと思いますよ。むしろ役者こそ書くべ

きだと思ふ。自分で書いた脚本だと台詞が完全に染み込んでいるので、「台詞を100%表現できる」というのは、こういう感覚なんだ」と体感できるので。

演技の勉強になるんですね。脚本家がどのように構造を考えて書いているのかもわかるので、解釈の仕方に関しても良い勉強になると思います。勉強と言うより、単純に面白い。発表できたら尚いいですけどね。私も最初は既成脚本でやっていたのですが、「一人芝居の脚本はそんなに多くなく、やるなら自分で書くしかない」と追い込まれて書き始めました。そこで発表する機会があつて、かつ「良かったよ」と言ってもらえたから続けられたと思います。

自分で書いて一人芝居をするWSがあったら、活動自粛中の演劇人にとって発散になるかもです。

自分で書いた脚本ってめっちゃ恥ずかしいのでそれが一人芝居をやる足枷になるんですけどね。なので「脚本は誰かが書いた」という体で匿名にして、「一人芝居をやる。成功体験も大事なので観終わった後は必ず大喝采という条件をお願いします(笑)。

今後やってみたいことは？ やりたいシーンはたくさんあるので、あわよくばまた演劇シーズンのような多くの人に見ていただける場でやってみたいですね。あと座組に入りたい！客演だけじゃなく、劇団に所属することへも憧れがあります！